

◆東北スタンダードマーケット 「伊達政宗 飾りコマ」



東北の工芸品や雑貨などがそろったセレクトショップに並び、仙台藩祖の伊達政宗をモチーフにし

たコマが人気を集めている。米沢市の「木地玩具つたや」のコラボレーション商品で、体が台、頭がコマになっていてユニーク。遊ぶのはもちろん飾ってもいい。
1個1836円。仙台限定商品で、カネイリス タンダードストアS・PAL、カネイリミュージアムショップ6（せんだいメディアテーク内）でも販売している。

仙台市青葉区中央3-7-5 仙台PARCO2 5階
営/10:00~21:00
休/仙台PARCO2に準じる
TEL022-797-8852

◆やまびこの湯

昨年11月にオープンした日帰り入浴施設。露天岩風呂や壺湯、血行が良くなることされる「高濃度炭酸風呂」など、多彩な風呂で疲れを癒やせる。1月には、休憩スペースに女性専用の「うたたね処」を新設した。入浴料は中学生以上700円、3歳〜小学生400円。土・日曜、祝日は各50円増し、毎月26日は各200円引き。8:00〜



10:00は中学生以上500円。未就学児は無料。月に数回設けるシニアデーは60歳以上600円。日には公式WEBサイトで確認を。

仙台市太白区5-24-1 ベガロポリス仙台南1階
開/8:00~翌2:00 (最終入館は翌1:30)
休/臨時休あり
TEL022-302-7626

◆雪の壁ウォーク2019

4月11日(木)~14日(日)



蔵王エコーラインでは冬期閉鎖が解除される4月下旬以降、路側に高く積もった雪の壁を見ながらドライブできる。この開通を目前に、春の名所を堪能できるウォークイベントを開催する。通常は車でしか通行できない蔵王エコーラインを歩いて散策できる。壁が1番高い最高積雪地帯では約9メートルなる雪の壁の迫力を体感しよう。事前予約が必要。マイカーの乗り入れは不可。詳細は蔵王町観光物産協会のWEBサイトで確認を。

会場/蔵王エコーライン周辺
問/蔵王町観光物産協会
TEL0224-34-4401

※価格は商品1点の総額(本体価格+消費税)

イベント & トピックス

鉄道マニアの シネマレビュー

砂の器

(1974年/監督:野村芳太郎/脚本:橋本忍、山田洋次)



【あの頃映画 the BEST 松竹ブルーレイ・コレクション】砂の器 3300円(税別) 発売元:販売元:松竹株式会社 ©1974・2005 松竹株式会社/橋本プロダクション

鉄道主体の映画でなくても、鉄道が映画の中で重要な役割を果たしている作品はたくさんあります。今回はそんな映画を紹介いたします。また両作品とも音楽の素晴らしさも群を抜いています。
(いきいきSUNクラブ会員/大澤武信)

松本清張原作の日本映画の金字塔の一つで、当時のらい病に対する偏見を背景に、らい病の父を持つ過去を消し去るために犯した殺人を描いた社会派推理小説を映画化したものです。昨年は各地でシネマコンサートが開かれ、人気の高さを思い知らされました。

今西警部補(丹波哲郎)と吉村巡査(森田健作)

が羽後亀田駅に降り立つシーンから始まり、殺人現場の蒲田操車場、返り血の付いたシャツを処分した中央線の列車、らい病施設へ送られる父を追う亀高駅と、随所にちりばめられた列車の走行シーンや駅のたたずまいが、当時をしのばせます。ラスト40分の捜査会議を軸にしたコンサートと放浪の旅が織り成す映像

美はこの映画の白眉であり、人間の宿命という逃れられないものへの抗いが感じられます。放浪のシーンの大部分は雪の津軽半島で撮られたもので、弘前出身の筆者としては特別感慨深い映画でもあります。
「宿命」と題されたピアノ協奏曲も素晴らしく、シネマコンサートが盛況なものとなすけます。

007 ロシアより愛をこめて

(1963年/監督:テレンス・ヤング/脚本:リチャード・メイボム、ジョアンナ・ハウワッド)

007シリーズ第2作目にあたる本作品は、旧ソ連の暗号解読機レクターをめぐるスパイアクション映画です。

ソ連のスパイであるタチアナ・ロマノヴァ(ダニエラ・ヒアンキ)が西側にレクターを渡すことを条件に亡命を望んでいるとの情報により、英国は007ジェームズ・ボンド(シヨーン・コネリー)をイスタンブール

に派遣します。ボンドが現地でタチアナと一緒にレクターを手に入れ、英国へ脱出する際に使われたのがオリエント急行でした。

映画ではオリエント急行であることには一切触れていませんが、見る人が見れば一目瞭然です。調度品をはじめコンパトメント内のベッド、洗面台の詳細な描写やタチアナとのラブシーン。レ

ストランカーでの食事、廊下での乗客の様子も描かれ、当時の鉄道マニアにとってはとても貴重な蒸気機関車と一般客車の映像でした。

特にスペクターの刺客グラント(ロバート・ショウ)とのコンパトメント内での格闘シーンはこの映画のハイライトの一つです。

ライオネル・バートが作曲し、映画の中ではマツト・モンローが歌っていた主題歌は映画音楽史上に残る名曲として、現在でも数多くのシンガーが歌っています。